

带状疱疹予防接種を受ける前によくお読み下さい。

== 福岡市 ==

一般的注意

- 带状疱疹の予防接種は、個人の発病・重症化予防を目的としています。
 - 本予防接種は、接種を受ける法律上の義務はないため、有効性や副反応などについてよく理解された上で、自らの意思で接種を希望される方のみ接種を行います。
 - 予防接種の安全性の確保と、接種後の副反応被害を回避するため、健康状態や体質などをきちんと医師に伝えましょう。
 - 接種済証は確実に保存しましょう。
- 接種に関して気にかかることや分からないことがある場合は、予防接種を受ける前に接種する医師やかかりつけの医師にお尋ねください。

带状疱疹ワクチンについて

- 带状疱疹のワクチンは2種類あり、带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。
- どちらのワクチンを接種するかは、医師にご相談のうえご検討ください。
- 過去に带状疱疹ワクチンの接種を受けたことがある人は、医師が必要と判断する場合に接種できます。

ワクチンの種類		生ワクチン (乾燥弱毒生水痘ワクチン「ピケン」)	組換えワクチン (シングリックス)
接種回数・間隔		1回接種	2か月以上の間隔をおいて2回接種 ※医師が必要と判断した場合、最短1か月まで短縮可能。 ※接種間隔が2か月を超えた場合は、6か月後までに2回目の接種をすることが望ましい。
带状疱疹の 発症予防 効果	接種後 1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
	接種後 5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
	接種後 10年時点	—	7割程度の予防効果

→裏面へ続きます←

予防接種を受ける前に

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には、接種を受けるご本人が責任をもって記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

(1) 予防接種を受けることができない人

下記にあてはまる方は本予防接種を受けることができません。該当すると思われる場合、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

- ①明らかに発熱している人（一般的に、体温が37.5℃以上の場合を指します。）
 - ②重い急性疾患にかかっている人
 - ③今まで带状疱疹予防接種によって、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな人
- ※「アナフィラキシー」というのは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。
- ④上記以外で、予防接種を受けることが不適当な状態にある人

(2) 予防接種を受けるに当たり注意が必要な人

下記にあてはまる方は本予防接種について、注意が必要です。該当すると思われる場合は、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

- ①抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある人
- ②過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- ③輸血やガンマグロブリンの注射を受けた人・大量ガンマグロブリン療法を受けた人
- ④心臓血管系、腎臓、肝臓、血液疾患などの基礎疾患のある人
- ⑤過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた人
- ⑥過去にけいれんを起こしたことがある人
- ⑦本ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある人

過去に、薬剤で過敏症やアレルギーを起こしたことのある人は、接種前の診察時に必ず医師へ伝えてください。

そ の 他

(1) 副反応について

生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」）については、注射部位の発赤・そう痒感・熱感・腫脹・疼痛・硬結、皮膚の発疹、倦怠感など。また、頻度は不明ですがアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎など重篤な副反応が現れることがあります。

組換えワクチン（シングリックス）については、注射部位の疼痛・発赤・腫れ、筋肉痛、疲労、胃腸症状（悪心、嘔吐、下痢、腹痛）、悪寒、発熱など。また、頻度は不明ですがショック、アナフィラキシーなど重篤な副反応が現れることがあります。

接種後に気になる症状があった場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

(2) 予防接種による健康被害の救済制度

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めて稀ではあるものの、なくすことができないことから、救済制度が設けられています。

申請に必要な手続きなどについては、お住まいの区の保健福祉センター健康課にご相談ください。